

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.36 2017.6.7
TEL71-2466

第6回 安曇野市総合芸術展開催



地域の文化祭で選考された作品が展示された。同時に、豊科近代美術館では「友の会」の

3月3日から22日までの20日間、豊科交流学習センター「きぼう」の多目的交流ホールで「第6回安曇野市総合芸術展」が開催され、市内外からおおよそ1000人が訪れた。出展作品は、絵画17点、水墨画5点、書道26点、写真16点、工芸17点、彫刻・彫塑8点の合計89点で、昨秋各



展が開催されていた。連絡通路が開かれて互いの来場者が行き来でき、様々な作品を見てもらった。「あづみ野ビデオクラブ」

による映像上映が同館ロビーで行われ盛況だった。今回は、繊細な工芸から迫力のある書道まで、個性ある作品が多く、来場者は丁寧に鑑賞していた。設置したアンケートには「また来たい」「素晴らしい作品ばかり」「それぞれの良さがあった」などの言葉が多く寄せられた。他にも、自分が興味のある分野以外でも、総合芸術展の作品を見て、興味が湧いたり、新たに挑戦してみたいという意見が多く見られた。平成29年度はアンケートの要望

等も加味し、更なる来場者増加、総合芸術展の発展を目指す。



健康体操で心も体もシェイプアップ

3月14日、明科公民館の講堂で「健康づくり講座・健康体操で心も体もシェイプアップ」が行われた。

講師に健康運動指導士の横山みゆきさんを迎え30人が参加した。講堂いっぱい並べられた椅子に座り、冬の間あまり使っていないかった身体の部分ごと、腕や首、腰



などひとつひとつの動きを確かめながら動かした。横山さんの軽妙なトークで、和気あいあいと楽しく笑いながら筋力アップの秘訣を習った。最後は市歌体操を大きな動作で行い「これなら家でも手軽に続けられる」「座ってできるのはありがたい」という感想が多く聞かれた。

櫻

公民館報記者として取材を始め早一年が経った。まだまだ分からない事も多く、勉強の毎日である。さて、私の身の回りにはまだ、広報あづみのや公民館報に目を通していない方もおり「知ってれば講座に参加したか

った」と残念がる声も届く。記者として、より多くの方に安曇野市の魅力的な講座や催しを知ってもらい、また参加してもらえよう、微力ながら周知を進めていければと思う。

(A・Y)



ほりがね
学びのつどい
春の箏コンサート

堀金公民館は3月4日、総合体育館で「学びのつどい・春の箏コンサート」を開催した。全国でコンサート活動を展開する、埼玉県在住の箏奏者、石川憲弘さんと横山裕子さんを招いた演奏会に150人余りが来場した。奈良時代、雅楽の合奏楽器の一つとして中国(唐)から伝わったという箏の歴史に始まり「箏」は一絃で幾つも音が出せ「箏」は一絃に付き一音という琴と箏の違いや楽器の解説を交え、演奏のみならず聴衆の心を魅了した。「箏を習っていたことがある」と言う葭本千津さん(堀金烏川)は「金子みすゞの詩に乗せた独自のアレンジに和楽器の懐かしさを感じた。箏に親しむ機会の少ない小中学生に聞いて欲しかった」と話していた。



(東山路)

松本盆地東縁断層観察会

穂高公民館は4月27日、地域環境研究室の浅川行雄さんを講師に迎え「松本盆地東縁断層観察会」を開催し24人が参加した。

穂高公民館前で出発の会を行い、参加者は3台の車に分乗し、各地で断層地形や河床露頭についての解説を聞いた。松本市平瀬より順に中曽根から熊倉、徳治郎アクアピア安曇野付近、光橋真下の犀川沿い、明科中川手の計5箇所を観察した。近い将来地震を引き起こす確率が高いと言われる活断層を観察したことにより参加者の防災意識は高まった。なお、人気の同講座は6月20日に第2回目を行う。



ほたか

明科の魅力を再発見講座

明科の魅力再発見講座



みさと

正姿流押絵作品展示

三郷公民館は5月1日から31日まで、公民館ロビーに「正姿流押絵」の作品を展示した。同館で押絵教室を開いている押絵作家、田畑美鈴さんの指導で作成した生徒6人と家元の艶やかな20数点の作品が飾られた。押絵は布による貼り絵の技法で、下絵から写し取った型紙に綿を貼り、その上に布を置き、まちをつけて裁断し、型紙を布でくるみ、下絵に合わせ貼り合わせるという工程をたどる。季節に合わせた「こいのぼり」や「かぶと」などを和布で表現した秀作が並んだ。

(東山路)



あかしな

2月23日、明科公民館の調理実習室で「明科の魅力再発見講座(第2回) 信州サーモンとニジマスをおいしく食べよう」料理講座が行われた。講師はニジマスの円揚げで有名な、株式会社辰巳開発責任者の瀧澤佳洋さん。「信州サーモンのアボカド巻きブロッコリーソース添え」「ニジマスの円

出会い・ふれあい・生きがいセミナー
「相撲にかけた・青春と楽しみ方」

とよしな

日本相撲連盟認定アマチュア5段で、相撲愛好家の西村絳文さんを講師に、35人の参加で、全3回の1回目が2月28日に行われた。西村さんは、中学1年の時、夏巡業で豊科に来た吉葉山の大ファンになり、高校・大学と相撲部に在籍して活躍、社会人になり何回も国体に出場した。廻しひとつの裸で勝負する清々しさ潔さ、小よく大を制する技の魅力や江戸時代からの県内出身幕内力士や、中信地区出身の現役力士などについて楽しく話された。



揚げのフィッシュバーガー」など、見た目も華やかで珍しい5品を講師のお手本をみながら、参加者全員で作って試食。「地元の食材だけど、普段ほとんど自分では料理する機会がないので楽しかった」「ちよつとの工夫で華やかになる、さすがプロの技」という感想が聞かれた。

古きを尋ねて

②4 成相氏館址

(豊科・本村)



JR南豊科駅から西に約200mの所に本村公民館がある。この一帯100m四方が成相氏館址である。豊科町誌によると「成相氏

はいつころからこの地に居住していたか明らかでないが、おそらく住吉庄の領主のもとにあつて成相(新田・成相・本村)の名主職をつとめてきたものであろう。」とある。この地籍が本村の開発の原点である。

中世末(1580年頃)には北方の成相まで開発が進められた。現在も地区の中心であり、公民館・大日堂・道祖神がある。ここは別名「おやしき」と言われ、現在の本村公民館の南に大きな屋敷があった。屋敷の西側に堰に囲まれた田があつたようである。堰はため池の役目もはたしていたといわれている。

当時の開発に必要な水は、どの

ように確保したのであろうか。梓川より引いた鳥羽堰を延長した成相堰を引き水田の開発をした。水の確保に苦労があつたと思われる。現在は、農業構造改善事業により当時の面影は、ほとんどない。また、この地籍の北に「大海渡」と言われる所があり、有効土壌が深く水田開発の中心地である。ここは、平安時代の土器が出土しており集落が形成されていたかどうかは不明であるが、人が住んでいたことは間違いない。また、本村公民館の南西の水田地帯に本村神社の古宮址がある。現在は古宮址の碑があるだけであるが昔は小高く盛り上がりお祭り子どもの遊び場であつた。

豊科地域には城館址が15か所あり成相氏館址はその一つである。豊科町誌に場所及び説明が載っている。身近な旧址を尋ねて往時をしのぶ参考にされたい。



参考文献 『豊科町誌』

『豊科町の土地に刻まれた歴史』

小穴芳實氏

私は一生懸命



明科いいまちつくろうかい!!
事務局 川崎克之さん (明科)

定年間近になつて「自分の故郷は一体何処だろう?」「自分の居場所?」という疑問を抱き始め、「信州ふるさとづくり応援団」設立の発案者となり、ひそかにQ&Aを計画する。その活動は「自分のふるさとづくり」でもある。安曇野を自分ばかりではなく、わが子や孫たちが帰って来たいと思ふふるさとにしたい、そんな思いで様々な活動に関わっている。

いわば、「安曇野ふるさとづくり応援団」は本籍、ここを拠点に「安曇野案内倶楽部」「クラブトゲート匠の杜」「やまこの学校」の活動に参加。他に、古代史研究会の「安曇誕生の系譜を探る会」、趣味の写真の「全日写真連安曇野支部」などにも加わり活動している。

現住所は「明科いいまちつくろうかい!!」と胸を張れるように、これまでのネットワークを活用しながら、活動の軸足を地元明科に移し、実のある活動をしたいと考へている。

(静流)



【注】「安曇野ふるさとづくり応援団」は「信州ふるさとづくり応援団」を母体とし、組織分割に伴い、旧安曇野支部が変更された団体です。

地区公民館だより

楡地区公民館(三郷)

「楡地区」は、三郷地域の西北に位置し、黒沢川を背に北アルプスを仰ぐ北の玄関口と称され、古くから住吉神社が鎮座している。北は「住吉」東に「中萱、及木、二木」南は「下長尾、上長尾」西に「東小倉、北小倉」と、三郷14地区の8地区と境を接している。

公民館の館内に阿弥陀院があり歴史を忍ばせるが、一方「楡地区」の歴史は住吉神社の歴史を知る事と重なる場面が多い。近年、住吉神社の前の広場に「楡の里公園」を築き「せせらぎ」と呼ぶ人工の小川を作って集いの場としている。世帯数425戸、人口1170人。(5月1日現在)

公民館組織は「公民館長、副公民館長、主事」の3役と、「体育部、文化部、生活産業部、女性部」の各部に部長、副部长、書記の3役を置いて活動している。三郷公民館主催の「三郷祭」夏と冬の「スポーツ大会」等の各種行事には地区を挙げて参加している。



公民館事業としては「夏祭り」「研修旅行」の他「小

字対抗ソフトボール大会」や「ボリリング大会」のスポーツ大会に「そば打ち講習会」「親子料理教室」「しめ縄作り講習会」「人権学習講座」等の教養講座、農業講習の「青空教室」や「家庭菜園講習会」「草花講習会、寄せ植え教室」も実施している。特に「夏祭り」「魚つかみ大会」「西瓜割り大会」は、会場の「楡の里公園」に、小学生をはじめ老若男女250人余りが集い、世代を超えた交流の場となっている。また、28年度から、公民館内の活動グループ11団体が主体になって「芸能発表会」を開設し、新しい事業として力を入れている。行事の他に「楡の里公園」の環境美化活動として「せせらぎ清掃」を各部担当の事業として実施している。



公民館行事の人集めの工夫として、積極的な声掛けをすることで、参加人数は安定しているが、更に多くの区民が気軽に参加できるように企画して、地区を盛り上げていきたいと願っている。

(公民館長・小穴利素 副公民館長・関岳夫 主事・飯田弘一)

グループ紹介

堀金常念太鼓(堀金)

「堀金常念太鼓」は、安曇野市を拠点として地域活性化と伝統文化の振興に寄与することを目的に1988年に結成した和太鼓のグループで、心身の健康とともに、青少年育成や仲間づくりにも役立っている。

「童」「女雅美」「保存会」の3チームで構成し、総勢39人がそれぞれに合った練習内容で取り組んでいる。「童」は「勇氣、元氣、笑顔」をモットーに、保育園児から中学生までのチームで、毎週火曜日の午後6時から7時までと土曜日の午前9時から11時まで練習をしている。「女雅美」は「親の背中」をモットーに、子育て中のお母さんを中心とした女性のチームである。金曜日の午前10時から正午まで、子どもを連れて自分の頑張っている姿を見せながら練習に励んでいる。「保存会」は毎週火曜日と木曜日、午後7時から9時まで「強く、しなやかに」をモットーに、チーム全体での練習も併せて活動している。

一時は3人で活動していた時期もあったが次第に仲間が集まり、2005年には安曇野市太鼓連盟、2006年には財団法人日本太鼓

連盟に加入した。他の太鼓連とも交流を深めながら演奏する機会も一層増え、講習会や研修会にも参加し、技術向上のため日々練習を重ねている。練習時間の増加とともに、生活の中で共にいる時間が多くなり、保存会の仲間の結婚祝いにサプライズパーティーを開く等、保育園児から60代まで幅広い世代の交流が生まれ始まっている。

28年度は、安曇野市の行事をはじめ、日本伝統文化伝承活動の一環で外国の方に向けて演奏する機会もあり、31回の出演があった。イベントでは合同で演奏することが多く、和太鼓を愛する仲間同士、縦横の繋がりを大切にして互いに助け合い、仲良く活動を続けている。



代表 吉田和子 72・9604